

調査船設計業務評価項目等について

1 評価項目

公募型プロポーザルに参加した業者の提案に従い、業務委託した場合、漁業調査船基本構想に沿った調査船となるか評価するための項目については以下のとおりとする。

評価項目	評価要件	配点	
設計実績	<ul style="list-style-type: none"> ・FRP 船の設計実績はあるか。 ・調査船に求める速力以上の設計実績はあるか。 ・調査船に求めるものと同等の総トンの設計実績はあるか。 	20	
技術的提案	① 効率的、かつ安全に業務が行える調査船の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・必要となる速力（巡航速度 25 ノット以上）をもち、必要な海域を1日で調査できるか。 ・十分な陵波性、操縦性を持ち、安全な高速航行を行うことのできるか。 ・速い潮流に対しても船位が保持し、安全な調査を行うことが可能か。 ・転落防止措置や効率的に調査を行うことができるか。 ・造波を抑え、かき筏への影響を少なくすることができるか。 ・船長と研究員の意思疎通が十分に行える構造をもち、調査業務の際、安全な操船が行えるか。 ・早朝や薄暮時に安全に業務を行うことができるか。 	35
	② 精度の高い調査が行える調査船の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・将来にわたり、県内漁業者に有益なデータを提供してく機器等を搭載しているか。 ・低速航行時に高い操作性を持ち、停船時の高い船位保持性能を備え、精度の高い調査を行うことが可能か。 ・ネットワークを利用した即時に関係者にデータ提供が可能か。 ・ウインチやフレーム等と搭載し、ボンゴネット等の水平曳網による調査が可能か。 	20
	③ 長期の使用に耐える調査船の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・長期で使用しても航行能力（ア（1）に示す巡航速度等）および調査能力を維持できるか。 ・維持管理費を抑え、点検時のメンテナンス性の高い調査船となるか。 ・使用できない期間が、可能な限り短くなるよう効率的な検査等が行える調査船となるか。 	15
	④ 調査に適した船	<ul style="list-style-type: none"> ・業務に必要な広いキャビンと十分な甲板スペースを持ち、観測機器の昇降が効 	10

	内環境を持つ調査船の提案	率的に行える甲板の構造を持つか。 ・設計段階から実際に調査する研究員の意見を取り入れることが見込めるか。	
--	--------------	---	--

2 評価方法

評価項目ごとに以下の事項を考慮しながら、A：もっとも優位、B：優位、C：中位、D：劣位、E：もっとも劣位の5段階で評価し、各段階に応じた各係数を配点数に乘じ、委員全員の平均点を点数とする。各評価項目の合計得点数が最も大きい業者を最適な業者として特定する。

○採点に際して考慮する事項

- ・漁業調査船基本構想によく合致しているものを優位に評価する。
- ・船舶建造において、技術的提案が実現されるような設計図書となることが見込まれるものを優位に評価する。
- ・船舶設計に関し、業者の技術的提案に対する積極性がより認められるものを優位に評価する。

○段階に応じた計数

A	B	C	D	E
1.0	0.8	0.6	0.4	0.2